

第6章 Java ポリシーの設定

6. 1 Java ポリシー設定ツールの解凍

Java ポリシー設定ツールは、ご使用になるパソコンにダウンロードした任意のフォルダに、ダウンロードしたツールと同じ名称のフォルダが作成されます。

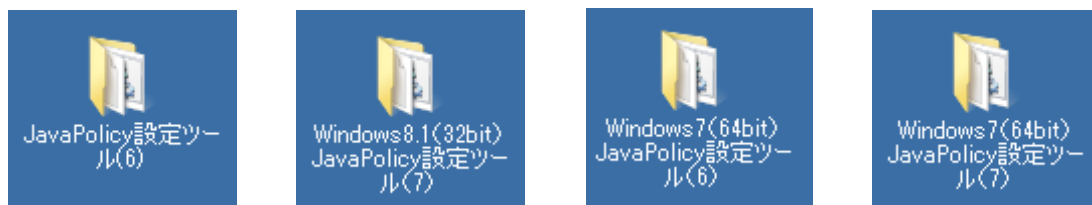


図6.1-1 JavaPolicy 設定ツール フォルダ

6. 2 Java ポリシーの設定

(1) ツールの起動

• Windows Vista/Windows 7 の場合

6.1で解凍したフォルダの中の「スタート.bat」をダブルクリックすると「図 6.2-2 スタート.bat 実行画面」が表示されます。

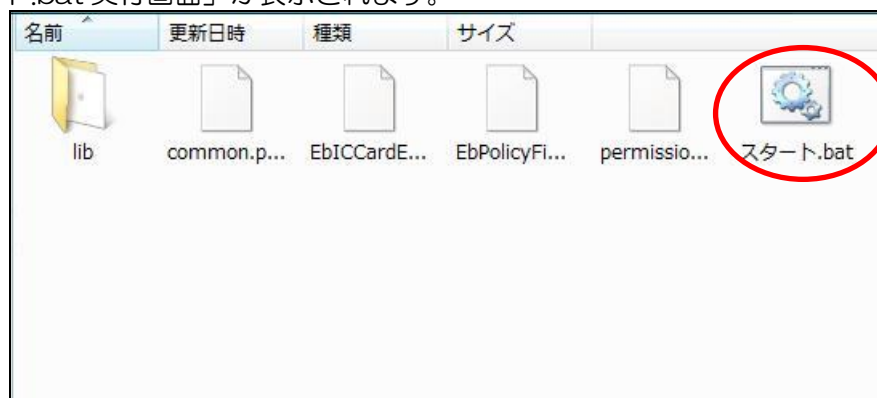


図6.2-1 JavaPolicy 設定ツール(6)フォルダ画面

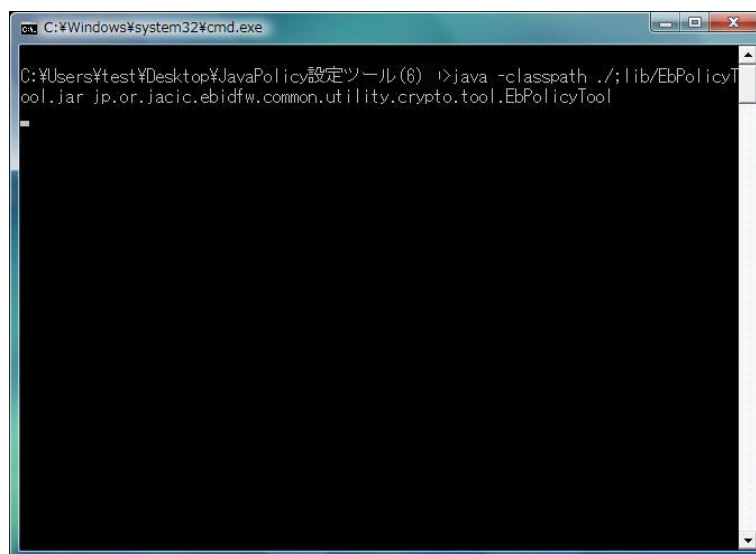


図6.2-2 スタート.bat 実行画面

- Windows 8.1 の場合

6.1 で解凍したフォルダの中の「スタート.bat」を右クリックし、「管理者として実行」をクリックすると「図 6.2-4 ユーザーアカウント制御」が表示されます。

ユーザーアカウント制御画面にて「はい」をクリックすると「図 6.2-5 スタート.bat 実行画面」が表示されます。

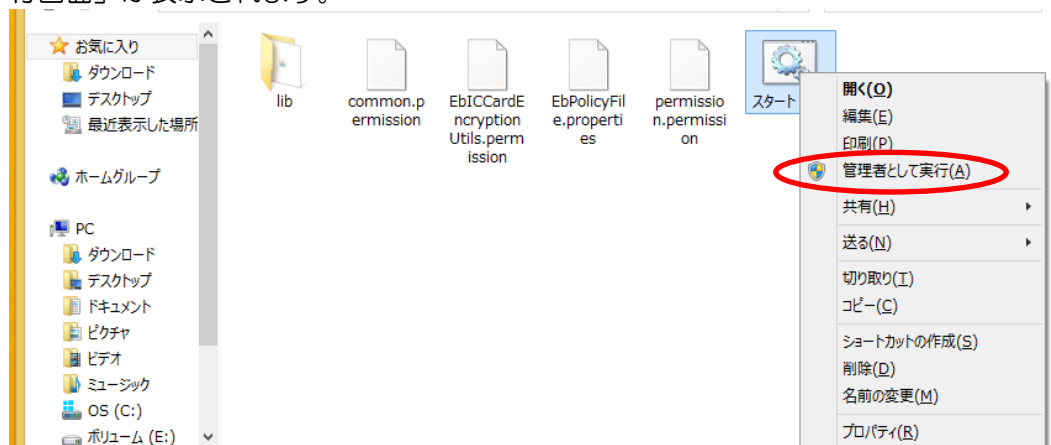


図 6.2-3 JavaPolicy 設定ツールフォルダ画面

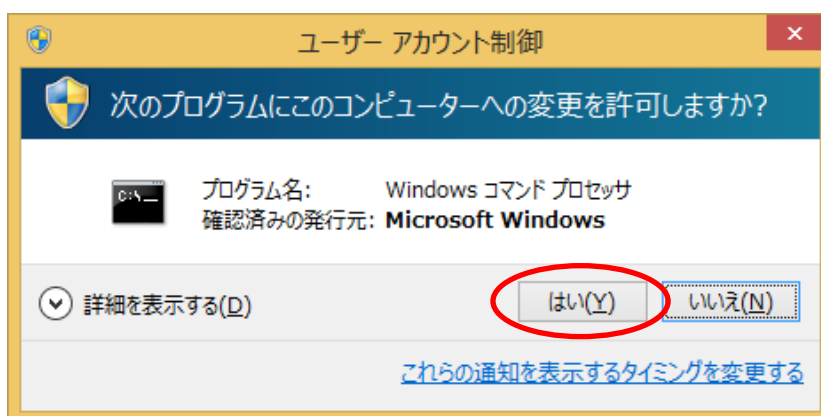


図 6.2-4 ユーザーアカウント制御画面

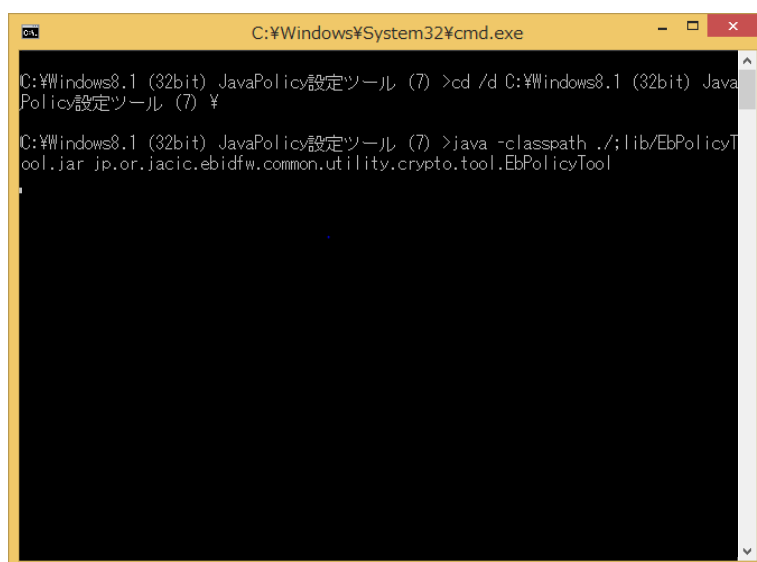


図 6.2-5 スタート.bat 実行画面

(2) 画面説明



図6.2-6 java.policy ファイル設定ツール画面①

<項目内容>

- ①発注機関名称
設定を追加する発注機関の名称を入力します。
- ②発注機関URL
追加する発注機関から提示されているURLを入力します。
- ③登録ボタン
入力した名称とURLを用いて、java.policy ファイルに設定を追加します。
- ④終了ボタン
このツールを終了します。
- ⑤ポリシーファイルの参照ボタン
java.policy ファイルの内容を表示します。
- ⑥登録済み発注機関リスト
登録済みの発注機関名称の一覧を表示します。
- ⑦削除ボタン
登録済み発注機関リストで選択した発注機関に関する設定を削除します。

※java.policy ファイル設定ツールを実行する場合は、管理者権限のユーザにて実行して下さい。

※Java のバージョン更新（アップデート）を行った場合は、再度 java.policy ファイル設定ツールを実行する必要があります。

(3) 登録処理

少額物品システムに対する設定を行います。



図6.2-7 java.policy ファイル設定ツールの画面②

<操作手順>

- ①発注機関名を入力します。(例：〇〇〇〇市)
- ②発注機関 URL に「https://www.ebs-asp.fwd.ne.jp/CALS/」が表示されていることを確認します。
- ③登録ボタンを押します。
- ④確認画面です。
登録を実行してもよければ「はい」ボタンを押します。

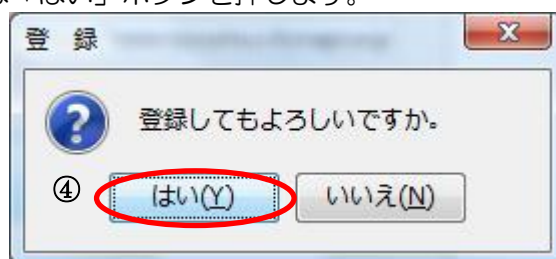


図6.2-8 登録確認画面

- ⑤登録済み発注機関に①で入力した内容（例：〇〇〇〇市）が表示されたら登録完了です。
なお、本ツールにより、java.policy ファイルを変更するたびに自動的にバックアップファイルが作成されます。

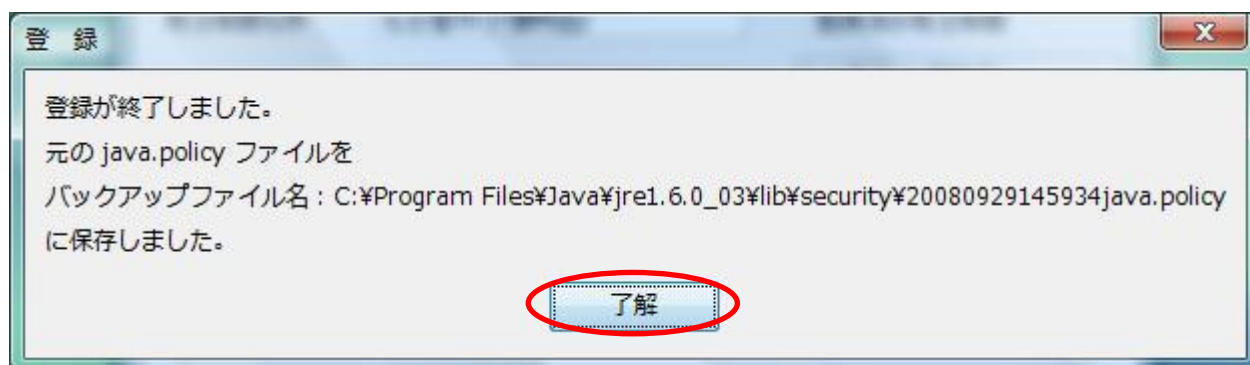


図6.2-9 登録完了画面

◎以上で Java ポリシーの設定は完了です。

注意

上記（３）④で「はい」ボタンをクリックした後、下図のような画面が表示され、登録に失敗した場合、ユーザーアカウント制御機能を無効にし、パソコンを再起動した後、再度、上記（１）ツールの起動から実施してください。

ユーザーアカウント制御機能を無効にする手順は、補足を参照してください。

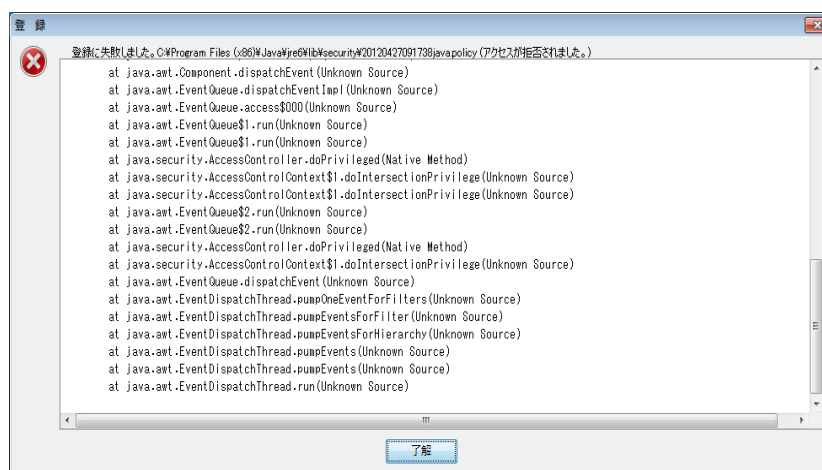


図6.2-10 エラー画面（例）

※Java ポリシーの設定が完了したら、ユーザーアカウント制御機能を元の状態に戻し、パソコンを再起動してください。

補足 ユーザーアカウント制御機能の無効化

注意

この作業は、Java ポリシーの設定に失敗した場合のみ、行ってください。
Java ポリシーの設定が完了したら、必ず元の状態に戻し、パソコンの再起動を行ってください。

1. Windows Vista の場合

(1) 「スタート」ボタンをクリックし、「コントロールパネル」を開きます。

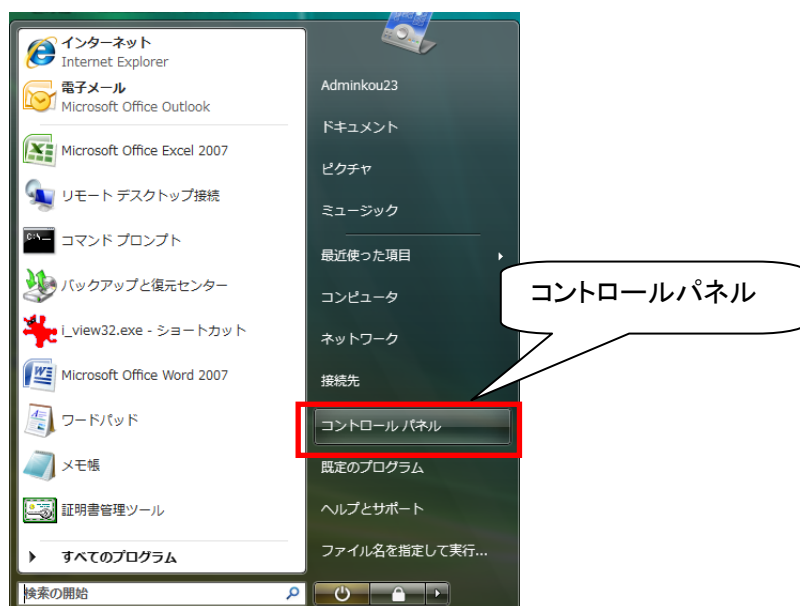


図 補足.1-1 コントロールパネル呼び出し画面

(2) コントロールパネルの画面左側で「クラシック表示」をクリックし、「ユーザーアカウント」を開きます。



図 補足.1-2 コントロールパネル画面

(3)「ユーザーアカウントの制御の有効化または無効化」を開きます。



図 補足.1-3 ユーザーアカウント画面

(4)「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示されるので、「続行」ボタンをクリックします。「ユーザーアカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる」のチェックを外し、「OK」ボタンをクリックします。

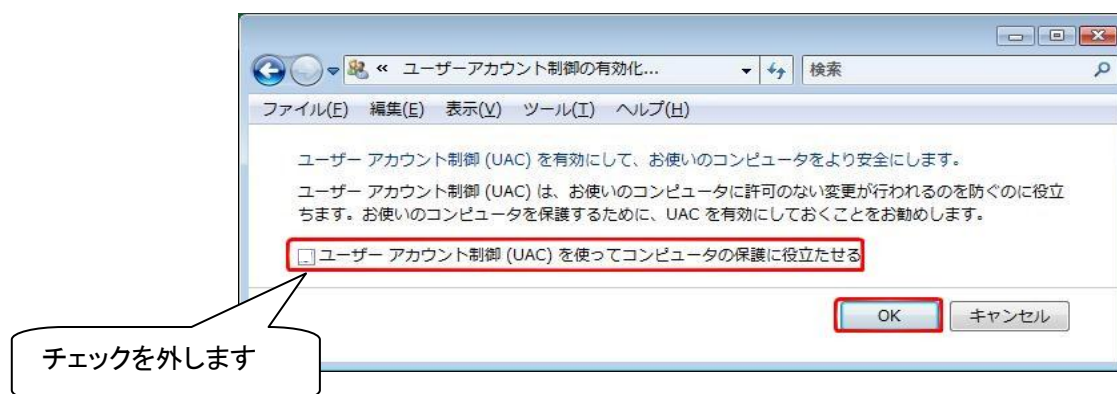


図 補足.1-4 ユーザーアカウントの制御の有効化または無効化画面

(5)「OK」ボタンをクリックすると、「これらの変更を適用するにはコンピュータを再起動する必要があります」と表示されるので、「今すぐ再起動する」を選択して、パソコンを再起動してください。

2. Windows 7 の場合

(1) 「スタート」 ボタンをクリックし、「コントロールパネル」を開きます。

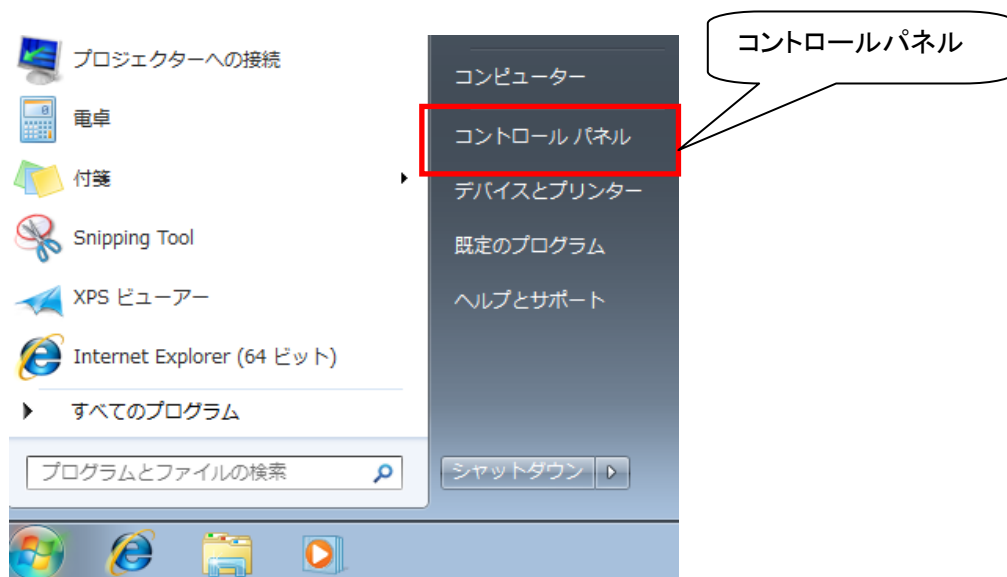


図 補足.2-1 コントロールパネル呼び出し画面

(2) 「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」を開きます。

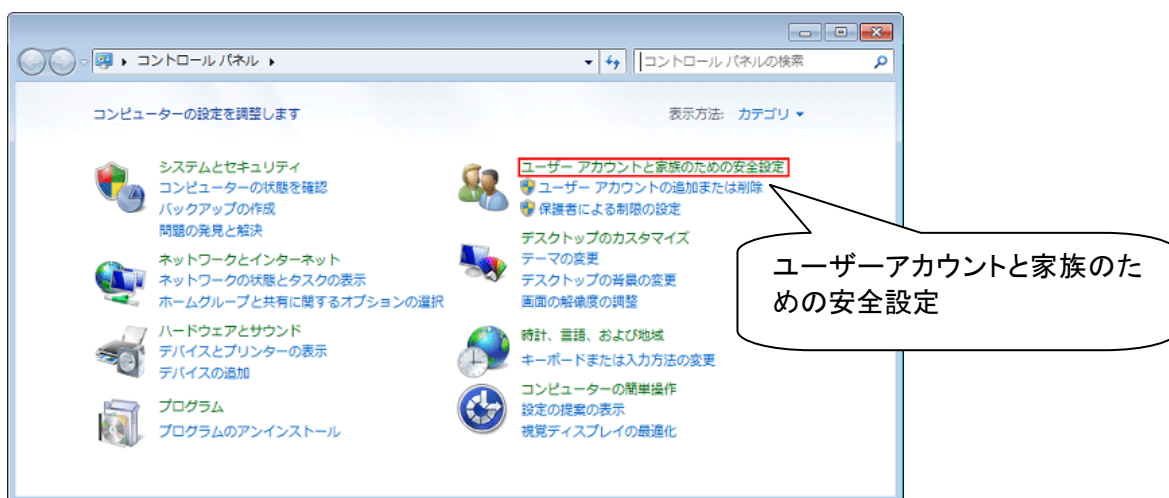


図 補足.2-2 コントロールパネル画面

(3)「ユーザーアカウント」を開きます。

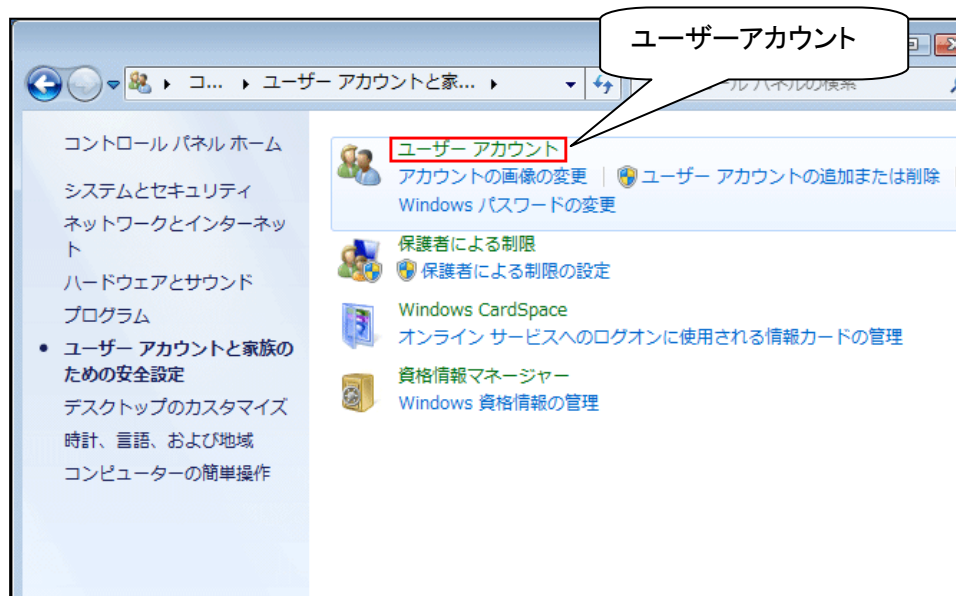


図 補足.2-3 ユーザーアカウントと家族のための安全設定画面

(4)「ユーザーアカウント制御設定の変更」を開きます。

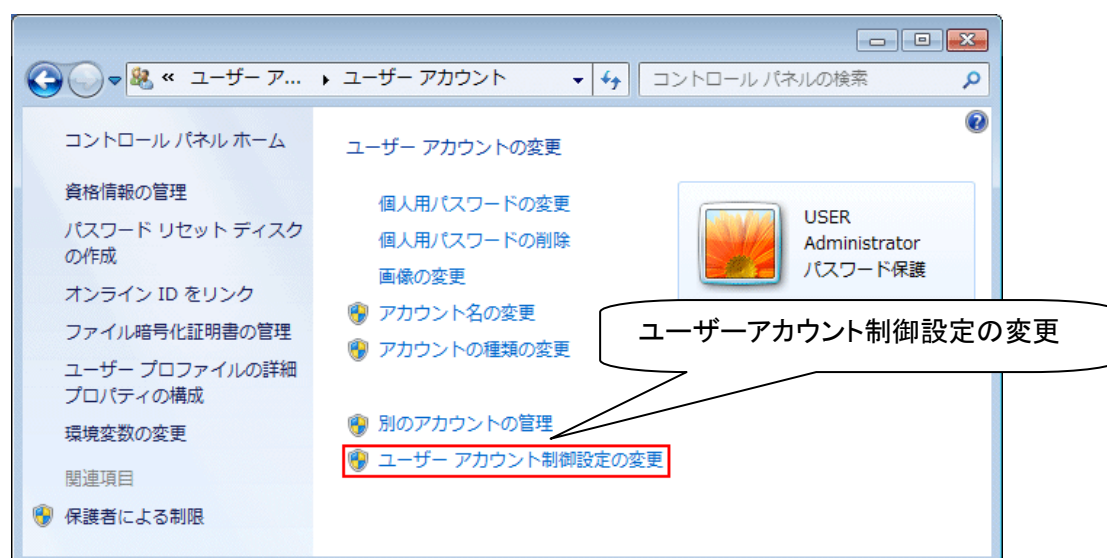


図 補足.2-4 ユーザーアカウント画面

- (5) 「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示されるので、「続行」ボタンをクリックします。
ユーザーアカウント制御の設定画面が表示されるので、ゲージを「通知しない」までスライドさせ、「OK」ボタンをクリックします

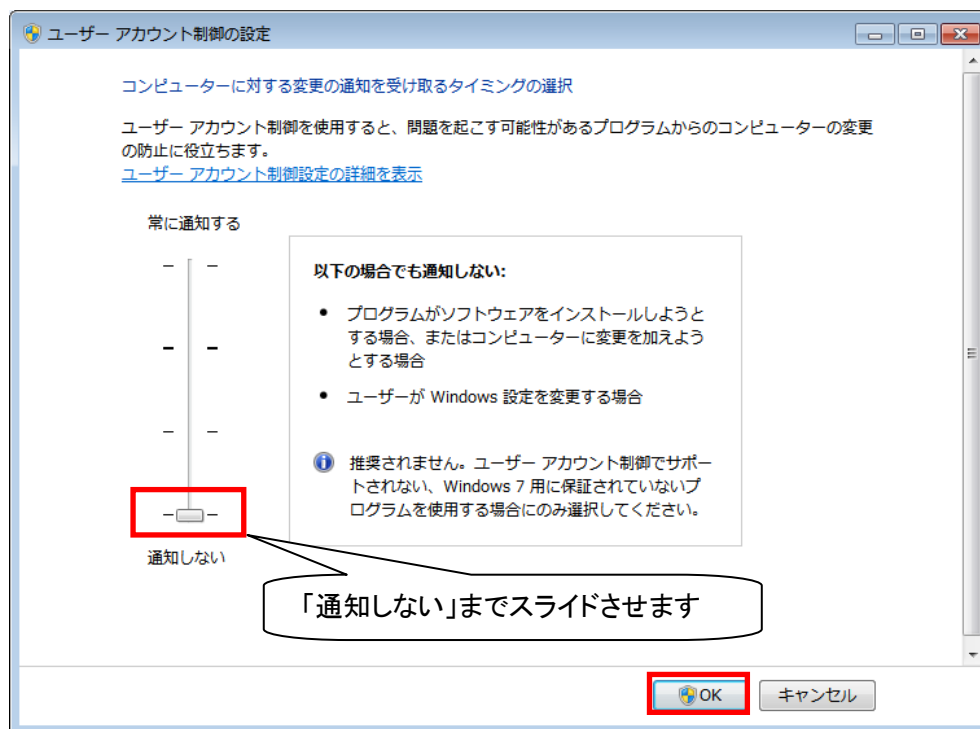


図 補足.2-5 ユーザーアカウント制御の設定画面

- (6) 「OK」ボタンをクリックすると、
「ユーザーアカウント制御を無効にするには、コンピュータを再起動する必要があります」とメッセージウィンドウが表示されますので、メッセージをクリックしてパソコンを再起動してください。

3. Windows 8.1 の場合

(1) スタートメニューを右クリックし、「コントロールパネル」を開きます。

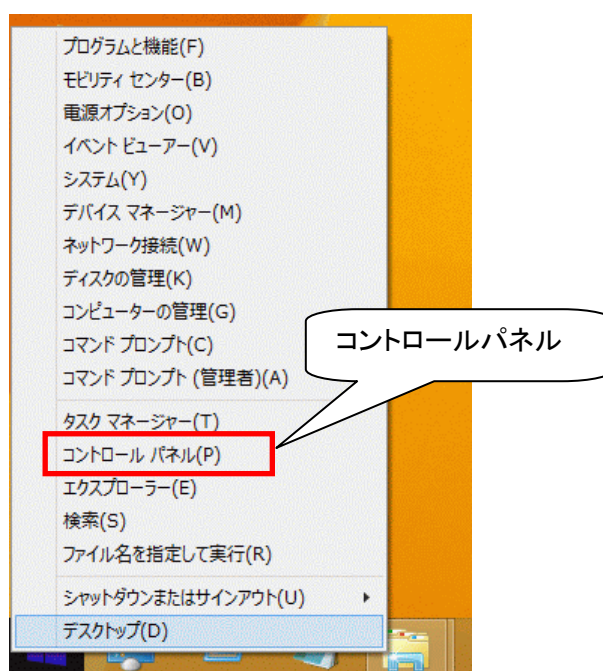


図 補足.3-1 コントロールパネル呼び出し画面

(2) 「ユーザーアカウントとファミリーセーフティ」を開きます。

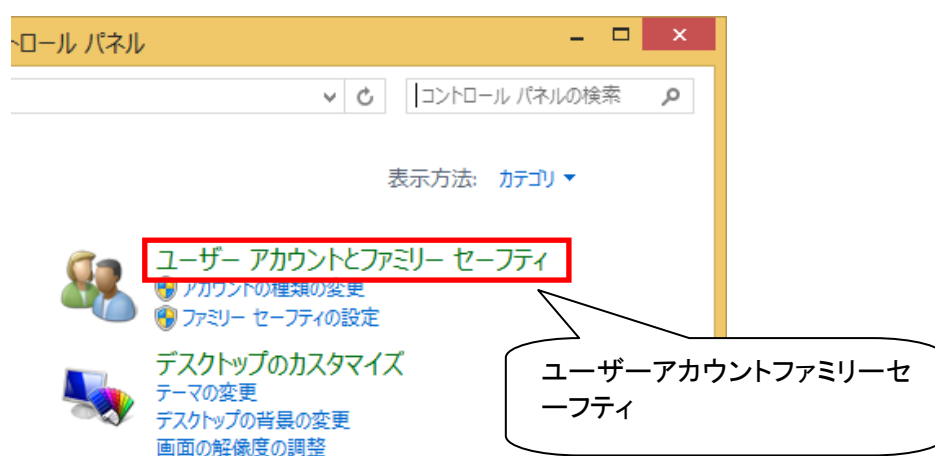


図 補足.3-2 コントロールパネル画面

(3)「ユーザーアカウント」を開きます。

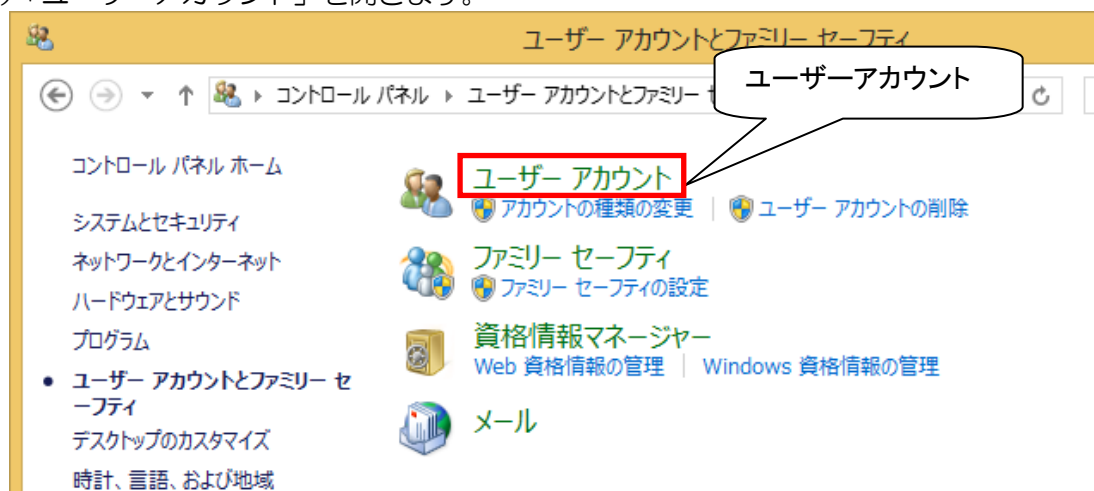


図 補足.3-3 ユーザーアカウントと家族のための安全設定画面

(4)「ユーザーアカウント制御設定の変更」を開きます。

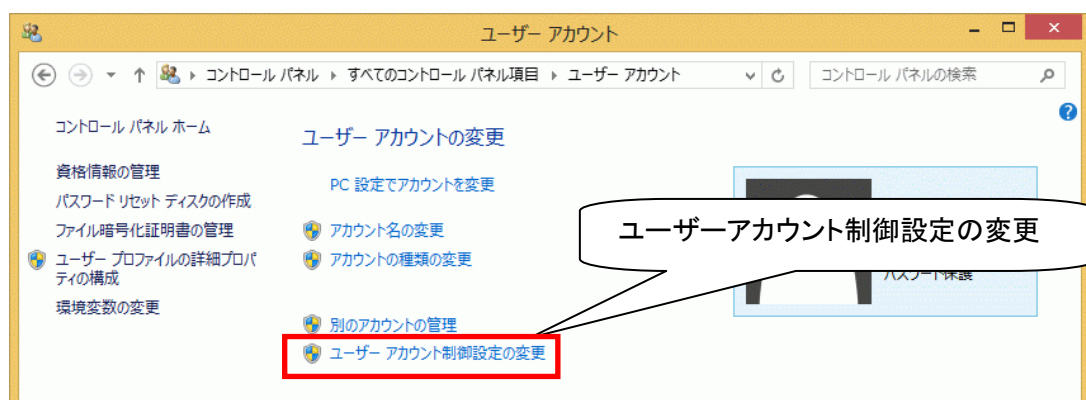


図 補足.3-4 ユーザーアカウント画面

- (5) 「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示されるので、「続行」ボタンをクリックします。
ユーザーアカウント制御の設定画面が表示されるので、ゲージを「通知しない」までスライドさせ、「OK」ボタンをクリックします

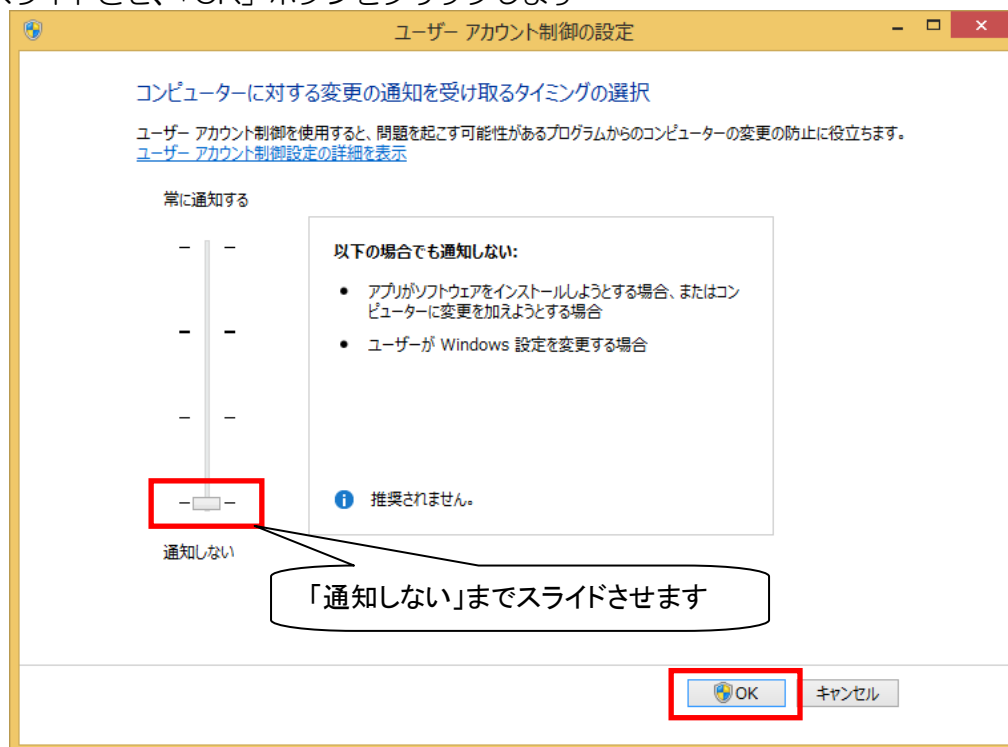


図 補足.3-5 ユーザーアカウント制御の設定画面

- (6) 「OK」ボタンをクリックすると、
「ユーザーアカウント制御を無効にするには、コンピュータを再起動する必要があります」とメッセージウィンドウが表示されますので、メッセージをクリックしてパソコンを再起動してください。